

R.F.C.M Heartful Report

リスク・ファイナンシャル・カウンセリング・マネジメントのハートフル。レポート===2012年10月号

◆再生に向けた「夢」は何ですか？

♪～僕には～♪夢がある～♪希望がある～♪
そして～♪○○○がある～♪～♪#

TVから聞こえるコマーシャルソングで耳馴染みになっている筆者が大好きな歌詞。

「事業再生」や「人間関係」のトラブルで相談にいらした方と接するとき大切にしているのは、「目の前に山積している問題を解決したその暁には、ご自分がどのような”夢”を描いていますか？」…と、その方の将来の「夢」を聴かせていただくことにしています。

長い間の苦渋の悩みで「夢」など考えられないし、とにかく楽になりさえすればそれだけで十分です…と、少しうつむきながらポツリという人。再起に向けて手間取る人です。

ある日の研修会で「夢とは？」と質問してみましたら、いくつもの意見がありました。

「夜、寝ているときに無意識に見るもの…」
「実現が不可能なもの…」
「将来に向かって実現させたいと思う願望…」
「時間の経過と共に内容が変わっていくもの…」

何が正解かという問題ではありません、日常からはかなり遠いところにあるものとして捉えられているようです。

「夢を叶えるために…」必死に頑張ってきた…、「夢を掴み取るために…」ひたすら頑張ってきた今の自分がある…、という言葉にも裏付けられているように、「夢」を現実のものにするにはただ黙って待っているものではないと言うことが伝わってきます。

「タナボタ」のようにして実現するものではないことだけは確かなようです。

自分の夢を人に語る、他人の夢の大きさに驚いたり、自分の夢の実現のためにはそれを理解してくれるパートナーが大切なのです。

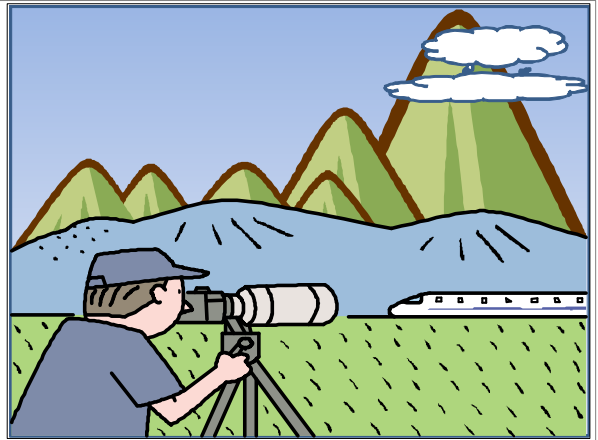
相談者でも、整理をした後の「夢」を具体的に語ってくれる人は、それを具現化するための障害を取り除く方法や疑問点の質問を矢継ぎ早にしてくれますが、かなり短期間で再生を果たし見事に蘇っています。

◆人は「希望」が見えてくれば行動ができる！

「よし！これでいけるぞ!! 先生、ワクワクするような希望が湧いてきましたよ!…」と、1週間後には『事業計画書』を作成して計画達成のためのスケジュール表の検討に入るのですが、この時間が将来への決め手になります。

私たちが日常的に言っている「希望」とは、業務上では『事業計画書』に基づく”行動計画”や”日程表”

リスクのクessler
夢がある！希望がある！そして…自分がある！



と”予算書”に他なりません。
「夢」を具現化するために順序立てて整理していくと、そこから実現できそうな「希望」が湧いてくるのです。
◇すぐに出来ること ◇時間をかけて確実に実行すること ◇自分が頑張らなくては他人に迷惑をかけること ◇周囲の人たちの理解と協力を得なければならないこと ◇必ず実行するという意思を持つこと

「夢」を描いても放置していたのでは儂く消えてしまいます。放置せず「目標(夢)」として「営業計画書・事業計画書(希望)」で明確化することによって達成させるための行動が出来るようになるから不思議です。

◆自分の立ち位置を理解しているか？

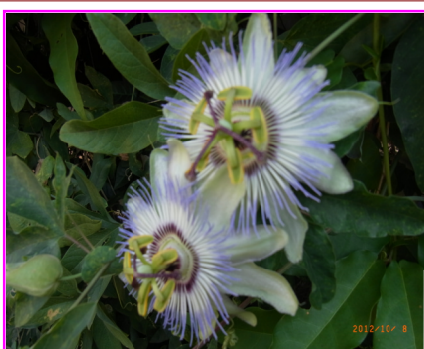
夢(目標)の実現のため「自分(会社)の立ち位置(健康・経済・思考・環境)」をしっかりと把握しておくことが大切です。

自分の「夢」を実現させるために、他人を騙したり、利用したり、踏み台にして「礼」を尽くさなかったり、自分(会社)の健康管理を疎かにしているようでは、達成できないことは確実です。

そして、スタートした位置と目標に到達するための方向を見誤っていないか、きめ細やかに注意を払って確認することは必須条件です。特に、組織で動く場合は、組織を構成する一人一人のベクトルが同一方向に向いていることは絶対条件です。

複数の電池の内、一つでも逆方向で繋がっている状態の結果は歴然としています。

全社員が**自分の立ち位置**を知り、同じ**意識**と、同じ**レベル**で、同じ**方向**を目指すにはOJTや教育研修が絶対条件です。そして、TVコマーシャルが聞こえたら♪～僕には～♪夢がある～♪希望がある～♪そして～♪じぶんがある～♪～♪# と歌ってみては如何？？



挿し芽をすることで容易に増やすことができるようなので、一枝いただいで挑戦してはいかがでしょう。か。花言葉は「聖なる愛」「宗教的情熱」です。

ちよこ歳時記

久しぶりに通る道。生垣に絡む蔓の所々に直径10cmほどの「時計草(トケイソウ)」が垣根の隙間から顔を出すように咲いている。

花弁とガクが大きく華やかな文字盤から数mm突き出ている雄しべは長針、短針、秒針と三本の指針があるように、しみじみ見入ってしまうほど時計のように見える。

中央アメリカ以南の熱帯・亜熱帯域を原産として広く世界中で栽培されていて、しるべ、ピンク、紫などの組み合わせで五〇〇種類以上もあるようです。

保険についてご相談を承る中で「大きな病気や怪我で入院した事も無いので入院保険は必要ない」等々のご意見を耳にする事が少なくないのですが、実はその時期にこそ医療保険を検討すべきなのです。

医療保険が必要と思う時は、もう加入できない？

保険加入の動機は人それぞれですが、一般的に人生の中で健康に不安が無く活力に溢れている時期には保険の必要性を軽視しがちです。

しかしながら保険は「いつでも誰でも加入できるわけではない」というのが現実なのです。

これは一般的な意識と保険会社側からの視点では事情が異なって来る事に起因しています。

健康であれば問題ないのですが、例えば、会社の健康診断で異常を指摘された等「ご自身の健康への自信が揺らいで保険の必要性を感じている方」の場合には、保険会社は健康状態に不安のある人と無い人を同様には見てくれません。

将来的に保険金を支出する可能性を考慮し、契約に際して一定の条件を付けたたり、保険料が割高になったり、加入自体をお断りする場合があります。

一番厳しい審査基準であるのが医療分野の保険なのです。

保険に加入する際は健康状態を告知書類や健康診断の結果で保険会社に報告するのですが、私の経験上では何も告知が無い人の方が稀な程です。



また、心療内科や精神科などで不安や鬱の症状を改善する薬を処方されただけでも、症状の重い軽いに係わらず保険加入自体が難しくなってしまう事は意外な落とし穴かも知れません。

私としては相談者の立場

ファイナンシャルプランナー 山口晶子

場になりご希望に添えるよう、審査基準の異なる保険会社を選択したり、加入時期をずらしたり、内容自体を見直したりと知恵を絞るのですが、手を尽くしても保障内容に条件が付いてしまう時などは、お伝えするのは本当に心苦しいものなのです。

まだ自分は大丈夫！その時が加入どき？

最近のニュースで、うつ病など精神疾患で苦しむ人が世界で3億5000万人を超えるとの推計が発表されました。（2012年10月9日世界保健機関（WHO）発表）

この数は当然先進国に集中しておりますし、日本も当然その中に含まれていることを考えると、「病気」は単に体だけではなく、心が病んでしまう可能性も高まる傾向にあるといっても過言ではないはずですよ。

あなたが充実した忙しい日々を過ごされているなら、ご自身の体を労わる余裕すら無いのではありませんか？

優れぬ健康診断の結果や体調の変化を機会に医療保険を考えるよりも、「保険は必要だとは思うけど、自分はまだ大丈夫」と感じている時の方が、選択肢も広いので、保険を選べる優位性があります。つまり医療保障を備えるのには最も相応しい時期と言えるでしょう。

常日頃、感じることなのですが、時間は二度と戻りません。まだ大丈夫のその時こそ、ご自身の為に人生における危機管理を考えられる人とそうでない人では将来的に大きな差が出てくるのではないのでしょうか。

【山口 晶子さん・プロフィール】

横浜市在住。ファイナンシャル・プランナー（AFP）株式会社RKコンサルティング所属。日本FP協会会員。神奈川県ファイナンシャルプランナーズ協同組合正会員。ライフプラン、保険、年金相談の他、セミナーでの講師も務める。

様々な細胞に成長できる能力を持つ「iPS細胞」を作ったとして山中伸弥氏が「ノーベル医学生理学賞」を受賞した朗報を受けて、日本人受賞者を調べてみました。

【物理学賞】6人

- ◆湯川秀樹 1949年・大阪帝国大学
- ◆朝永振一郎 1965年・東京帝国大学
- ◆江崎玲於奈 1973年・東京大学
- ◆小柴昌俊 2002年・東京大学
- ◆小林 誠 2008年・名古屋大学
- ◆益川敏英（共同受賞）・名古屋大学

【化学賞】7人

- ◆福井謙一 1981年・京都帝国大学

気になる数字…19人 日本人の「ノーベル賞」受賞者数

- ◆白川英樹 2000年・東京工業大学
- ◆野依良治 2001年・京都大学
- ◆田中耕一 2002年・東北大学
- ◆下村 脩 2008年・旧・長崎医科大学
- ◆鈴木 章 2010年・北海道大学
- ◆根岸英一（共同受賞）・東京大学

【医学生理学賞】2人

- ◆利根川進 1987年・京都大学
- ◆山中伸弥 2012年・神戸大学医学部

【文学賞】2人

- ◆川端康成 1968年・東京大学

◆大江健三郎1994年・東京大学
【平和賞】1人

◆佐藤栄作 1974年・東京帝国大学
【経済学賞】

◇本日現在「経済学賞」を受賞した日本人はいない。

＝元日本国籍のノーベル賞受賞者＝ 【物理学賞】1人

◆南部陽一郎 2008年・東京帝国大学
私たちが、子供の頃から偉人の伝記本で馴染みの深い「北里柴三郎」や「野口英世」は何度もノミネートながら受賞されなかったのは寂しいですね。それと、国威高揚のために研究費の日米乖離を一考すべきでは？

遠地に所有の貸駐車場に作業場を建てられた！

不動産コーディネーター **豊田 泰由**

故郷の青森県に相続した駐車場がありますが、地元不動産屋から、駐車場の借主から作業場を建てたいので別途に契約書を作って貸してほしいと申し入れがあり、契約書を送ってきましたが、借主が建てたいという作業書の詳細は分からないので、そのまま放置しておきました。3年ぶりに故郷に帰り駐車場のことが気になったので立ち寄ってビックリ、10坪ほどの作業場兼居宅の建物が建っていました。

法務局に行くと登記簿謄本にも「建物番号」が登記されている建物がありました。所有者の氏名も記載がありました。自分の土地の上に、他人名義の建物が建っていました。作業場とはいえないほど立派な建物で、完全に権利が発生しています。

建築基準法2条による建物とは、屋根、壁もしくは柱がある建物は、役所に建物があることを登記申請をしなければなりません。これからも10㎡以内の増改築は届け出が必要です。さて、建築基準法による建物の基準とは……

◆外気分断性…屋根及び周壁、柱などで外気を分断する構造である。◆定着性…しっかりした土台によって土地に定着している。◆用途性…建物がその目的とする用途として使える状態。◆取引性…不動産として独立して取引の対象となるもの。

信頼のおける不動産業者に、「建築基準法に基づく建物」が建てられないよう、建築物の図面を添付するなど契約書での規制が必要です。

■ 認知症予防・新書 ■

NPO法人 認知症介入指導協会 理事 清輔喜美男=
<http://www.ninchisho-yobo.jp>

～「神経細胞は大人になっても成長する」～

短期記憶を司る「海馬」は、人が成長してからも神経細胞ができることは既に知られています。

藤田保健衛生大学や京都大学、東京農工大学の研究チームが最近発表した論文によると、「大脳新皮質」の脳でも、神経細胞が新生することをラットの実験で突き止めたそうです。

大脳新皮質は、「前頭葉」「頭頂葉」「後頭葉」「側頭葉」の4つを総称しますが、思考や人格を司る高度で重要な部位です。

この部位の神経細胞が新生するということは、認知症の改善や認知機能の低下を防ぐことになります。

医学の進歩はまさに日進月歩です。5年ぐらい前は認知症の予防はできないといわれていました。

現代医学では「頭を使う」「運動する」「バランスのとれた食事をする」の3つが、認知症予防の3大要素といわれています。

「生活習慣に予防方法を取り入れて、『継続的』におこなうことで認知症は予防できる」が今は一般的となっています。

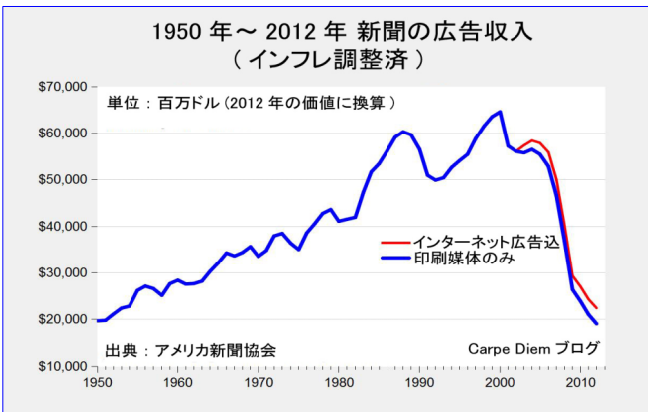


World Now
急速に変化するメディア市場と活用



先月は、メディアの急速な変化をご紹介しました。今月は、古くからあるメディアのひとつ、新聞に関する数字をご紹介したいと思います。

出典は、ミシガン大学フリント校のマーク・J・ペリー教授のCarpe Diemというブログ(<http://www.aei-ideas.org/2012/09/freerfall-adjusted-for-inflation-print-newspaper-advertising-will-be-lower-this-year-than-in-1950/>)です。



アメリカ新聞協会が発表している新聞の広告収入の数字を、現代の貨幣価値に調整して作成されたグラフ(2012

年は、第二四半期までの数字をもとにした予測)です。ペリー教授は、次のような解説を書かれています。

青い線の印刷媒体のみで見ると、2012年の広告収入は約190億ドルで、アメリカ新聞協会が統計をとりだした1950年以降最低の数字です。しかも最近の下落スピードには、驚かされます。たった5年前、2007年には現在の倍を超える460億ドルの収入がありました。そして、2004年には現在のおよそ3倍である565億ドルの収入があったのです。

違った観点から見ると、1950年には200億ドル(インフレ調整済)だった広告収入が、635億ドルになるのに、50年も掛かった一方で、635億ドルが200億ドルに戻ってしまうのに、たった12年しか掛からなかったということです。しかも2012年の広告収入は、インターネット広告を数字に含めても224億ドルにしかならず、1953年の224.7億ドルに及びません。

ペリー教授の説明から読み取れるのは、市場の変化に掛かる時間は驚くべきスピードで短くなっているということです。新聞がインターネット広告を提供しても、そこに需要はなかったわけです。インターネットとともに成長してきた検索エンジンに敵わなかったということでしょう。

市場がこれだけ速く変化している現代においては、事業からの撤退を決めることひとつをとっても、昔以上に素早い決断が求められています。その素早い決断に外部の専門家をうまく活用していただければと思います。

人生を省みたとき、いくつかの節目で区切ることができですが、悩みやトラブルを抱えた人々と接しているリスク・カウンセラーとしてのいまが、25年間と一番永くなっていて、あと25年先、30年先になる90歳代半ば(現時点の自分の夢)に向けて、凜として、しかも楽しく日々を過ごせる天から授かった格好な仕事だと感じられるようになってきたことは、本当に幸せな過ぎりです。

「船の上に生涯を浮かべ…」の俳人・松尾芭蕉の旅人として飄々と生きる姿を想像すると、何もかも自分の力で切り拓いているなどと穿った気持ちをもった時があったことを恥ずかしくさえ思い起こしています。

人との瞬間の出会いを大切にするとすることは、それぞれの人が自分の心の中に育み大切にしている「珠玉」をさらけ出してゆくことによって、一瞬一瞬の言葉や表情からお互いの理解が深まってゆくように思えます。

「二つの選択肢に”安易なこと”と”難しいこと”があったら、”難しいこと”を選択しなさい」という母の言葉を思い起こしては、未だ自省と自信を繰り返しながらの人生を、いたずらに時間をかけている私。

自分が、磨かずにくすみかけてしまった玉のときも、キラキラと照り輝きオーラのようにエネルギーを放つ玉のときも、出会う人(未知の玉)と玉響(たまゆら)のごとく触れあい響き合いながら新しい世界を創り上げることが大切なのだと思えます。

言葉が過ぎたか?表現がまずかったかな?などと思ったら良寛和尚の『言葉についての戒め』を書いたページを読み直します。

- 1、言葉の多い事
- 2、話の長い事
- 3、手柄話をする事、
- 4、自分の生まれや身分の高い事を人に言う事

- 5、人がものを言い切らないうちにものを言う事
- 6、たやすく約束をする事
- 7、人に物をやる前に何々をやろうと言う事
- 8、物をやった事を他の人に言う事
- 9、よく知らない事を人に言う事
- 10、悲しんでいる人の前で歌を歌う事
- 11、人が隠している事をバラす事
- 12、目下の人を軽んじる事
- 13、部下に荒い言葉を使う事
- 14、心にも無い事を言う事

そして、良寛和尚の俳句や短歌には、自分を描くエンディングノートのヒントがあるようにも感じている昨今です。

『世の中に まじらぬとには あらねども 一人遊びぞ 我はまされる』

『形見とて なに残すらむ 春は花 夏ほととぎす 秋はもみじ葉』

『散る桜 残る桜も 散る桜』

松尾芭蕉・「奥の細道」の好きな書き出しの一節には『月日は百代の過客にして、行きかふ年もまた旅人なり。船の上に生涯を……』と、繰り返し口ずさむほどに、無我になれない自分の生き方に時折苦しむこともあります。苦しみや悩みから解放されて喜んでくださるクライアントの表情に救われているのも一つの自分の姿です。

それにしても、昨今の世相は何か異常です。

丸い○会話より三角△や四角◇の尖った会話が行き交うことが多く、譲り合い、分け合う心を持っていないながらも精神が壊れるような悲しく切ない世の中になっている。

中小企業経営者には、25年4月からの「金融円滑化法」の打ち切られることによって、再生半ばで活動が断ち切られるかもしれない状況があります。

今であれば、リスク・カウンセラーにも手伝えることは山ほどあるのが見えているので、現状から一步を踏み出すことによって不可能を可能にすることだって吝かではありません。

行動は、一日でも、1時間でも早く行動することが大切です。



『経営危機から家族を守る!』のしおり

このキーワードは、リスク・カウンセラーが小規模経営者に向けて訴え続けている永遠のテーマです。

- ①正しく“家訓を守り”承継できる会社経営をめざす経営者
 - ②急成長したのに資金繰りに行き詰まり再生に挑む経営者
 - ③長引く経営不振に決断が先送りになり迷走している経営者
 - ④不慮の事故により経営が危機的状態となった経営者の家族
 - ⑤企業再生が失敗に終わり“起死回生”に向けて頑張る経営者
- “万が一”の経営危機を回避するには日頃からの備えが必要です。

富貴への道

再生・再起への道

起死回生への道

◇発行者
◇責任者 代表取締役・リスクカウンセラー 細野 孟 士
◇連絡先 〒113-0033 東京都文京区本郷1-35-12
TEL. 03-5684-0021 FAX. 03-5684-0031

<http://www.holonics.gr.jp>

【ホロニック】

(英: Holonic) 全体(ホロス)と個(オン)の合成語。

すなわち組織と個人が有機的に結びつき全体も個人も生かすような形態を言う。生物は個々の組織が自主的に活動すると同時に独自の機能を発揮する一方でそうした個が調和して全体を構成する (小学館「カタカナ語の事典」より)